

協会を支える分科会活動

～活性化に向けての取り組み～

分科会運営委員会委員長 杉田 稔

1. はじめに

定例である「平成21年度 分科会連絡会議」が、寒風吹きすさぶ名古屋市内の名鉄グランドホテルに於いて、1月22日（金）に開催された。今年は全国から代表幹事、副代表幹事の方々やコーディネータの先生方、協会幹部、事務局の方々73名が出席された（写真-1）。この出席者数は分科会連絡会議が始まって以来の最高の数であって、代表幹事をはじめとする会員の皆様方の「分科会活動」への関心の高さを示しているように思えて大変喜んでいる次第である。



写真-1 分科会連絡会議の討議状況

バルクハンドリング分科会から始まって19分科会ごとに「平成21年度の活動報告」と「平成22年度の活動計画」が報告され、それらを通じての分科会活動に対する問題点の討議や、各分科会同士の平成22年度の分科会の共催などの計画についての意見交換や調整を目的とする「自由情報交換会」が行われた。また会議の途中に、分科会幹事や代表幹事としての長年の分科会活動に対する感謝の意味を込めた「分科会功労賞」を7名の方々に江見 準会長より個々に授与され（写真-2）。筆者も受賞者の方々に、今までのご苦勞に感謝し心からの祝意を申し上げたい。本年も本誌が「分科会特集号」を企画してくれたので、この分科会連絡会議のホットな話題を中心に、分科会運営委員会の平成21年度の活動内容と平成22年度の活動方針について報告させていただく。



写真-2 第4回 分科会功労賞 表彰式

2. 分科会運営委員会の活動の経緯

昨年の分科会活動の特集号に於いても今までの運営委員会の活動の経緯について述べさせていただいたが、今回も「分科会運営委員会」の活動の趣旨を理解していただくために、重複するがこの経緯について述べておきたい。

平成11年1月に当時の天野牧男会長の肝いりで発足した「分科会運営委員会」の活動も11年目に入った。当協会の大きな事業活動の一つである分科会活動の活性化を図るために幾つかの施策を実施してきている。

- アンケート調査やヒアリング調査を経て、分科会の統合再編や「プロジェクト型分科会」の目的指向型の分科会が発足した。
- 規程を変更し、分科会同士や粉体工学会の研究会などとの共催を可能とした。
- 分科会代表幹事やコーディネータの皆様の参加を得て、一層の交流・情報交換の場を提供するための拡大分科会運営委員会の8月開催を定例化した。
- 総務委員会の協力を得て、協会のホームページに「分科会のページ」を作り、分科会活動の最新の情報をリアルタイムで会員の皆様に提供できるようにした。
- 平成20、21年度は協会の会員増強策に則っての東北・北海道地区での分科会開催に対する促進と補助

を行った。

- 分科会活動の活性化と各種問題の解決のため、代表幹事やコーディネータの交代があった分科会などを中心に各分科会のヒアリングを順次実施し、運営上の問題点などの調整や解決の手伝いをした。
- 分科会活動の新たな柱となってもらべく、「粉体エンジニア早期養成講座」を幾つかの分科会主導にて実施するよう方向づけした。

3. 平成21年度の活動報告

平成21年度の分科会運営委員会の活動方針は以下に示す3項目を掲げて分科会活動をサポートし活性化に向けた支援活動を推進してきた。拡大分科会運営委員会を含む3委員会での討議結果と分科会交流会や5分科会のヒアリング結果などを踏まえて平成21年度の活動実績を述べると以下ようになる。

- ①平成19年度に経産省の補助事業として実施した「中核人材育成セミナー」は平成21年度から「粉体エンジニア早期養成講座」として当協会の事業部門である教育部門での事業化が図られ、参加する各分科会活動の主要な柱となって活動することとなった。
- ②平成21年度も「拡大分科会運営委員会」および「分科会のヒアリング」を8月に京都にて開催した。分科会活動の問題点の抽出と各分科会交流の場として分科会活動の企画、運営の円滑化を図り活動に役立てていただいた。
- ③協会として、粉体に関する最新技術の情報公開や技術講演など各分科会の横断的な発表、PRの場を設けることを検討した。。

昨年度の活動結果は、7月25日、8月21日、11月26日、3月6日に開催された委員会、拡大委員会などにより、①分科会の海外開催の問題点の検討、②粉体エンジニア早期養成講座実施、運営方法の検討、③「粉体技術報告会（仮称）」の企画・開催の提案の検討、④各分科会活動の成果物の蓄積方法と成果発表の促進についての検討、⑤8月21日に開催された拡大分科会運営委員会の直前に、5分科会のヒアリングを実施し、代表幹事だけでなく副代表幹事やコーディネータの参加を得て、各分科会ごとの運営上の問題点や対策などの討議、⑥1月22日の「分科会連絡会議」に於ける、「分科会の新設、分割、併合、継続、廃止」のルール化と分科会開催時の配布技術資料の提出と保管、管理の実施の規約改正の提案と意見聴取、などが挙げられる

4. 平成22年度の活動計画

1月23日に開催された「平成21年度 委員会・部門連絡会議」に報告した平成22年度の事業計画について報告すると以下となる。

- ①1月の連絡会議に提案し、ご意見を伺った分科会規約改正案を完成させ、理事会の承認を得て実施に移行したい。
- ②「粉体技術報告会（仮称）」について、その位置づけなどを明確にし、骨子を作り、再度提案したい。
- ③分科会での配布技術資料の提出を徹底し、事務局にて冊子として保管管理し、技術情報の蓄積を推進する。
- ④例年どおりの委員会などの開催を予定し、幾つかの分科会のヒアリングを実施する。
- ⑤各分科会活動に、分科会運営委員会の委員が参加し情報収集を図っていく。
- ⑥「粉体エンジニア早期養成講座」の計画どおりの実施と次年度の教材作成や、講座増設を図っていく。

以上の活動計画により、平成22年度も各分科会活動をサポートし、実施項目はいずれも分科会活動の活性化を図るとともに、若手会員やユーザー会員の参加促進と拡大を図って、なおかつ社会に対する「粉体技術」の啓蒙、発信の場を提供していきたいと考えているので、会員の皆様の分科会活動への積極的な参加とご理解、ご協力をお願いします。



すぎた みのる
杉田 稔
(株)大崎総合研究所 顧問

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2
富国生命ビル27F
TEL : 03-3508-8011 FAX : 03-3508-2196
E-mail : mino-sugita@agate.dti.ne.jp